

「国民学校一年生の頃」其の二

小鹿野町 落合英子

このように、日本国民は天皇を神としてあがめ、心一つにして、この戦争を遂行するべく教育された。

「起立！礼！」

国で決めた行事、学校独自の行事が行なわれる時は講堂に集められて、重々しい空気の中で進められた。

「おはようございます」のあとに、毎朝毎朝次の文言を十回唱えて着席するのだった。

直立不動・最敬礼：。そして教育勅語というのを聞かされた。：。「チンオモウニ、ワガコウソコウソ。：」で始まり「ギョメイギョジ」で終わった。ほとんど意味はわからなかったが、ギョメイギョジを耳にすると、ああ助かったと思った。鼻水がたれても蚊やアブに血を吸われても絶対に動いてはいけないのだから、ギョメイギョジほど、ありがたい文言はなかった。

一年生の勉強がスタート

「ホシガリマセン カツマデハ。」

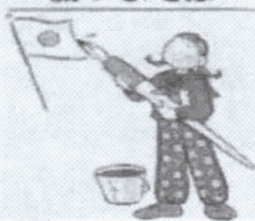
三年生より上の学年からは歴代天皇の名前を唱える声が響いてきた。そして、時々、廊下にサールをさげピカピカの靴を



履いた将校さんのコツコツという靴音が聞こえてきた。国家の方針にそった教育がちゃんと行われているかを、監視しているのだということだった。わたしたち一年生の担任は尾上菊子先生と言った。いつも白い開襟シャツに、紺のスーツを着、髪を後ろに小さく束ねていた。

先生は朝の挨拶のあと、すばやく黒板に水平線と縦の線を引いた。右側が日本、左側がアメリカを意味した。はじめは右側が広がった。やがて少しずつ左側が大きくなっていった。子ども心に日本が負けてきたんだと思った。

欲しがりません
勝つまでは



伊豆の旅

25年の一泊旅行は、何かと話題の多い伊豆・伊東です。宿泊は県の障害者福祉施設、潮風荘。ホテル等の宿泊代が高騰していますが、ここは格安で泊まります。城ヶ崎海岸・大室山・小田原城などの見学を予定しています。お誘い合わせでご参加ください。

日時 10月20日～21日

(月・火)

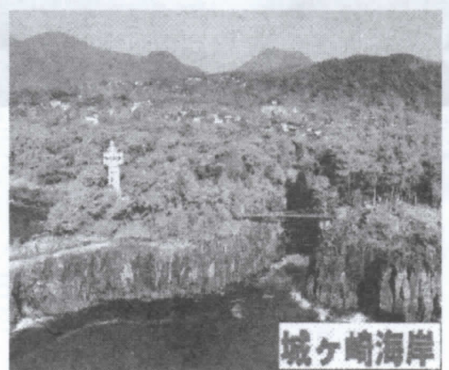
8時 小鹿野発

参加費 3万円

申し込み 身近な役員又は

書記局 梅澤俊雄まで

09069356183



——本の紹介——

『僕は19歳で戦争に行つた』

証言集編集委員会

編著者代表

高田哲郎

戦争の記憶が薄らぐにつれて、戦前に逆行するような世相に危機感を抱いた編著者は、19歳で繰り上げ徴兵された30余人の体験を聞き書きする。30余人の視点から、あらゆる実態が描き出されている。

戦後80年、日本国憲法に守られて平和な時代を生きている戦争を知らない人達が、反戦と平和への思いを強くすることを願い出版された。

